

AV JOURNAL

1993年 7月 第 24 号



〈デジジョンルームにて〉



目 次

“外大における外国語教育について” 外国人教師による座談会 第9回	2
LLA 関西支部「マネージメント研究部会」第1回研究会に参加して	9
〈LL 便り 1〉 1992年度テープ・ライブラリーの利用状況について	視聴覚資料係 10
〈LL 便り 2〉 新規購入映像資料（レーザー・ディスク）一覧	15
1993年度 LL 時間割表	16

“外大における外国語教育について”

外国人教師による座談会 第9回

(1992年1月28日)

出席者

パストーレ・サイコ、アントニエッタ (イタリア語)
アントニオ、リア・フランシスコ (フィリピン語)
バクシー、ギリシュ・チャンドラ (ヒンディ語)
サイド、A. M. ハミス (スワヒリ語)

視聴覚教育委員会委員長
橋本 勝

視聴覚教育委員会小委員

溝上 富夫
郡 史朗
大木 充

英語通訳

大津 智彦

橋本：「第9回の外国人教師によるAV座談会をただいまより開催させていただきます。さきほど簡単に自己紹介していただきましたが、今年は外国人教師の方4名をお招きしております。イタリア語のサイコ先生、フィリピン語のアントニオ先生、ヒンディー語のバクシー先生、そしてスワヒリ語のサイド先生、この4名の方におこしいたぎまして、外大における外国語教育について語って頂きたいと思えます。イタリア語のサイコ先生は、11年間の本学におけるイタリア語の教育を終えられて、この3月で御退職になるとお聞きしております。そういうことも踏まえまして、今年のこのAV座談会は基調講演として、サイコ先生にこの長年にわたる外大における外国語教授の御体験などを語って頂くつもりでございます。御手元にありますこのサマリーのような内容につきましてサイコ先生の御意見なり、御体験、御感想などをお話いただき、その後で他の先生方の御意見とか、この外大において外国語教授をするにあたって気づかれたことであるとか、この大学で学生達に教えてどういう御印象をお持ちになられているかというふうなことを、時間の許す限りでこの本学における外国語教育をいかに変えてゆくか、どのように改善すべきか、というふうなことを考

えて論じていただこうと思っております。では今いらっしゃる大津先生に通訳をお願いいたします。ではサイコ先生、よろしくお願いいたします。」

サイコ：「私がジュネーブの大学に入ったばかりの60年代の終わりのことでありましたが、そのときにある先生がおっしゃった言葉が印象に残っております。というのは、その先生がおっしゃるには、学生、教師間においての責任というものは、教師の方にあるのであって、それをよくわかっていない場合が多いということでありました。つまり教師は生徒のニーズ、欲しているものに対して自分から適応すべきであるということがわかってきたのであります。十数年前に、外大ではなくて別の大学でフランス語会話を教えているときに、最初の授業が非常に長くてこれから何を教えるかというリストを渡したところ、次の時間に学生が10~20人くらいしか集まらなくて、その時私は大変失望しましたけれども、よく考え直してみますと、自分と学生の間年齢差とか文化の違いとか、そういうものがあることを忘れていたことに気が付きまして、はっと大学時代に先生に言われたことを思い出し、どういうふうに教えるかを考え直すようにしました。イタリアの大学で学ぶ場合には、将来役に立つということ

は常に動機になるわけですが、日本の場合はその強い動機というものを、だいたいの学生は持っていないのでありまして、そのためにはこちら側から外国語を学ぶ、あるいは外国の文化を学ぶことがどんなことか、というふうに教えることによって強い動機というものを生み出す必要があると思います。日本の学生の特徴を言っておきますと、恥ずかしがり屋でして自分から喋りたがらないということです。私がそういう学生に最初接した時の態度といたしましては、無理に無理に喋らす方向に向かわすことではありましたが、結局そういうことをやっても無駄でありプッシュすればするほどひっこむというような感じがしました。ということでそこも考え直し、20才の学生の性格を変えることは無理でありますので、そこも考え直す必要があると思いました。その考え直した教え方といいますのは、その学生が話さないようなときに怒ったりしてはいけなくて、学生が喋るようになってそれを助ける、ということでありまして、特にその教室の中に、家族的な、親しみのこもったような雰囲気を作り出すことが大事でありました。とくに私が考えましたのはその母親的な気持ちを教師の側が持つことであり、時には怒ったり、時に励ましたりしながら授業をすすめていくことです。すると、結局その教師と学生の間には壁があるのは当然でして、これは初め、なければならぬとは思っておりましたが、それはあるのは当然であり、そこで私は母親的な態度をとるということにいたしました。クラスにおける民主主義に対する私の考えは、自分の意見を学生に押し付けないということです。これはあくまで自分の意見だ、というふうに前置きして、そして学生にも自分達の意見を述べさせて交換させるということが、教室における民主主義だと考えました。私が教えた学生は4年後には会話も作文もコミ

ュニケートもできるようになって、外国文化というものも分かるようになりましたが、非常に大事なことは4年たって卒業したときに、その学んだ言語が将来役に立つかどうかということです。もちろんイタリアに関係の深い会社に勤めるものも多いわけですが、そういう場合どうするかとか、将来役に立つかどうか、また習った言語を喋ったり使ったりするのが唯一の外国語を学ぶ価値ではないか、ということです。単に外国に行く用もありますけれども、本当に大事なことは4年間外国の文化や言語に接していたことであります。何故大事かといいますと、そうすることによって心が開けたり偏見のないひとになれるからということです。私の学生でもイタリアへ行くものが多いのですが、そこでカルチャーショックを受けます。もちろんそこで学生達はそれを克服しますが、そうしたときに自分に自信を持ち、いろんな考え方があるものだなあとということを経験するわけです。外国語を学ぶということであるいはそういった違ったな考え方があるといったことを学ぶことによって、国際的なひとになるわけですが、その国際的という意味だけではなく、その場合自分の文化をこれまでとは違った角度で見ることができるようになる、つまりその18才になって大学に入ったときに、たぶんこの外国語大学に入って、自分自身が今まで育てられてきた環境と、そしてイタリア語ならイタリア語とその自分の環境との間に距離をおくことができると、そういうことがあります。私は今だに学生との付き合いを持ち続けており家に遊びに来る場合がおおいのですが、ある日ある教え子が家族をつれて遊びにやってきました。そこで私は「あなたはイタリア語を覚えているか」と聞いたのですが、その人は「まったく覚えていない」と答えました。しかしまったく覚えていないけれども、自分はイタリア語を学ぶことによってま

ったく別の人間であると、それが非常に自分にとっては価値のあることであるといってくれて、もう一度イタリア語を学ぶ機会があったらそうしたいということであって、私は教師冥利につきると思っただんです。ありがとうございました。」

橋 本：「どうもありがとうございました。ただ今サイコ先生から長年にわたる、本学におけるイタリア語教育に携わった非常に貴重な御意見御体験を伺いさせていただきました。いろいろな問題点、そして我々が考えている問題とか、あるいは非常に考えさせられる諸点が、この御報告の中でございました。日本の学生達は非常に恥ずかしがり屋であるということはずっと以前から指摘されていたことであります。これをどういうふうに克服するかとか、外国語教育において日本の昔からの文化に根ざした日本人の若者の特性というものが、やはり外国語を学ぶ場合にも、いろいろなかたちでメリットになったりデメリットになったりするとうふうなことがあるわけでございます。そういうようなことも含めたいろいろな多方面の御意見がこの中にあると思います。そこで、サイコ先生のご報告に関連して、あとのここにおおきしております先生方に外国語教育に携わってどの様な御意見がおりかうかがいたいと思います。それではフィリピン語のアントニオ先生に御意見を伺いたいと思います。」

アントニオ：「私はこの大学で教え始めて4カ月目なのでサイコ先生のお話がお役に立ちました。サイコ先生のおっしゃっていたような話は、1989年に出版されたレクチャーで同じ様な話を私は聞いております。その中には、学生が高校時代の態度から抜け出せないとか、あるいは授業に参加するのが嫌だったりする場合どうするかという問題などを掲げておりましたが、私もサイコ先生と同じ様な経験をしておりまして、学生がとにかく時間どおりにこないということで、最初のうちは15分遅



れたら遅刻、30分遅れたら休んだことになるというふうにしておりましたが、段々アルバイトを学生がしておって、そうすることで学生もなかなか忙しいんだと分かってきました。しかしそういうことにどう対応していくかというのが今後の私の課題です。外国語を学ぶ場合の動機につきましては、フィリピン語科では、例えばパパピランという雑誌を出版しておりますが、そこでは学生が自分の意見を表したり、あるいは学生が教師の側に貸与するというので、これはひとつの動機づけとして役立っています。あるいはある学生が、去年の9月ですけれども、フィリピンに行って大変いい経験をしたのか、それ以来フィリピン語に興味を持つようになってまいりました。別の学生は大阪府警で職を得たらしいのですが、それを契機に1カ月間のフィリピン語集中講座にでると言い出しまして、これもひとつの動機づけになっていると思われ

橋 本：「どうも有難うございました。それではヒンディー語科のバクシー先生、お願いします。」

バクシー：「私がこれから申し上げることは、私自身の経験によるものですから、自分自身のことは、自分自身の母国語で発表したほうが私にとって容易であります。4点ないし5点御指摘がありました、その

うち私は2点についてお話したいと思
います。まず、サイコ先生がおっしゃ
っていましたように、確かに日本人の
学生は喋るということに対して極め
ておっくうであって、非常に消極
的であって、これは確かに語学教育
にとって大きな障害となっております
。それは私も否定いたしませんし、
私自身が体験したこともあります
。ただし、その障害は越えられない
ほど大きな障害ではなく、必ず対
応策があるものと信じます。それは
学生のレベルにまで教師がおいて
くるということです。学生の心理、
興味そういうものを考えて、教師
のほうから学生に歩み寄るとい
う姿勢がなにより大事だと思います
。教師と学生の間心理的な距離が
あってはいけないと思います。私の
個人的な体験から続けて申し上げます
と、こちらがアプローチ、彼らの
ほうに心理的に歩み寄ると必ずそ
の報いはあると、必ず学生は愛情
でもって答えてくれるということ
であります。ですからさきほど問
題になりました障害はさほどの物
ではないと思います。確かに例外は
あります。例外はどんな場合にも
ありますが、私は1年生から4年
生までの学生になぜヒンディー
語を勉強するのかという問いを
だしたことがあります。さまざま
な返事が得られました。例えば
インドの神話に興味を持っている
。インドの文化を知



りたい、インドの史跡を探索したい、
インドの料理が食べてみたい、女性
に特に多いですが、インドのあの
美しい優雅なサリーを着てみたい
。いろんな動機があってそれはい
ずれも正解であります。どの問題
を取り上げても、その興味を起こ
すためにインドの言語、ヒンディー
語を理解することが最もてっとり
早く、有効な手段であると私が説
けば、学生は徐々に興味を示すよ
うになるのでございます。もう一
つ明らかなことは、当然外国人学
生を教える方法は、自国語で、ネ
ィティブスピーカーを教える方法
とは根本的に違うということであ
ります。私が自分の国で自分の大
学生に教えるやり方と、本学で日
本人の学生に教えるやり方は根
本的に違ってあります。また違
うべきであります。同じ方法を取
るわけにはいきません。日本人の
ためには日本人用の教授法とい
うのが当然あるはずでありまして
、それを開拓するのが教師の義務
だと思っております。学生が必ず
しも、学生だけが非難されるもの
ではなく、今日その機械文明とか
、いろんな点でどんどん時代が
変わっておりますが、かえって若
い学生達の方が柔軟性にとんで
いる場合がありますから、その
プラス面はいかせるはずであり
ます。サンスクリットの中の有
名な詩なのですが、子供は5才に
なるまでは、思いきりかわいが
りなさい、それから15才までは
厳しくしつけて、もう16才にな
ると友のように扱いなさいとい
う教訓の詩がありますように、
学生はもう大人ですから、我々の
友人のように扱うほうが厳しく
しつけるよりははるかに効果的
であると、私はそのように信じて
おります。]

橋 本：「どうもありがとうございました。非常に示唆的で教訓的な御意見をいただきました。次に、スワヒリ語のサイド先生に御意見を伺いたいと思います。」

サイド：「この会議のことを昨日聞いたばかりなので、しっかりと用意してきませんでし

たけれども、サイコ先生があげられたことについて話したいと思います。私が大学に行ったときは、その大学では非常に競争率の激しいものがありまして、実は私はスワヒリ語を母国語にしておりますが、大学に行ったときは英語はあまり喋りませんでした。ところが大学では競争が非常に激しいもので、また就職という大きな目標がありましたから、喋ることを学ばざるを得なかったわけでそれが強いモチベーションになって、私は喋ることを覚えたわけです。ところが日本では就職というものにはあまり不自由せず、いくつもねたを狙っており、その中から選ぶような感じであります。ここに両方の大学の差があるわけですが、これをどうすればいいのでしょうか。私がここで言いたいのは、私がとってる方法といますのは、学生をよくみるということでありまして、つまりその学生が毎年同じであるということは絶対ありませんし、その年その年において学生が違うというわけで、その年ごとに、どういう学生であるかということをよく観察します。そして各年度の学生がなにをしたいか、その興味というものをよく聞き出しまして、それをもとに私は学習のプランを立てます。時には学生が非常にやる気を示すということもあり、去年などは演劇を行ったり致しました。それ以外には私を考え方を変えるということも行っておりまして、例えば最初の頃、私はたくさんホームワークをだしたりしていましたが、そうすると学生は逃げていったりしますので、最近ではホームワークはあまりださずに授業中に学ばせるというやり方をとっています。すると、学生も集まって来ているようであります。その他に私は学生に、日本について語らせることもさせています。特に私がいつも強調していることは、外国語を学ぶということはその外国語を喋るということではなくて、文化、その異なったカルチャーを学ぶということ

す。]
橋 本：「どうもありがとうございました。一通り皆様の御意見を伺いまして、外国語を教える意義であるとか、あるいはその外国語の有用性の問題、またそれが就職との結び付き、真の外国語を教える意義はどこにあるのか、これは最初サイコ先生がおっしゃったことのなかに含まれているわけですが、日本の大学生は、外大生もそうなのですが、あまりにも消極的であるということが先ず基本的に皆さんの共通項としてあると思います。この点をどのように克服すればいいのか、克服できるのかできないのかというふうなことにつきまして、多少意見の食い違いがあ



るかと思われまして。先ずこの外国語教育の最終目標といますか、一番の外国語を教える意味とか価値として何におくべきか、というふうなことにつきまして、再度簡単に皆さんにお伺いしたいと思います。]

サイコ：「先生方が既におっしゃったことですが、外国語を教えることの意味は、それを話したり呼んだり書いたりすることを越えて、若い人々により立派な人間になる能力を与えることにあります。つまりそれは、事物、人間、概念、政治的出来事、その他あらゆる面において客観的な判断ができ、偏見がなく、柔軟性があり、又謙虚で学ぶことを忘れない人を育てるこ

とです。これは大変な責任ですが、この点は忘れてはならないと思います。」

アントニオ：「外国語を学ぶということは、自国の文化や言語をより深く理解するというこゝも意味します。私は主に作文を教えますが、学生が既に知っていることを書かせるようにしています。例えば“日本の新年のお祝い”等もそのひとつで、私はまずフィリピンではどのようにするかについてフィリピン語で解説した後で、今度は学生達に独力で書かせるわけです。又私は定義付けという作業も行いますが、まずフィリピンに関する例を用いて聞かせた後、日本の例を使って書かせます。このようにして学生はフィリピン語だけ



でなく、日本の文化や言語についても学ぼうとするようになります。」

バクシー：「外国語を教えたり学んだりする最終目標について、今お二人の先生がおしゃったとおり私も賛成なんです。それに加えて学習者の個性の発展といいますが、人格形成といいますが、そういうことも必要だろうと思います。ある言語を学ぶのは、その言語でかかれた文学を教えれば事足りるといったものではなく、より重要なことはその言語が話される社会を知ることであって、同時にそうすることによってその学習者の経験の幅といったものを広げること、これが最終的な外国語学習の目標だと思っております。」

サイド：「私は外国語を学ぶことには二つの主な目的があると思います。ひとつは、理想ですが、人格を形成するというこゝです。これは誰もが賛成するところ、これ以上説明することはないでしょう。もうひとつは機能的な目的です。それに関しては応用言語学でいかにして伝達能力を身につけるかといった方法論が考えだされています。しかし結局のところ、外国語を学ぶことはそれを話す人の考えを理解するというこゝもかもしれません。ヨーロッパ人がアフリカにやってきたとき、アフリカ人を支配する目的でアフリカの言語を学び、アフリカ人の心理を知ろうとしました。このようにたゞさんの目的があるでしょうが、わたしにとっては、外国語を学ぶ理想的な目的は人格を形成することです。特に、国同士等の調和を生むことが必要な現代社会において、このことは特に大切だと思います。」

橋本：「どうもありがとうございました。」

郡：「一ついいですか。ここの外国語大学の学生は多かれ少なかれ、もう入学した時点で自分にとっての外国語学習の必要性というのは意識していると思います。それで、外国人の先生が求められているものは、それを、あの、モチベーションがないという話がありましたけれども、彼らにはあるはずなんです。それをうまく開発してあげる必要があるということとして、それと、先ほどサイコ先生が少しおっしゃいましたけれども、カルチャーショックを学生に与えてやること、この二つではないかと私は考えております。」

橋本：「どうでしょうか。今モチベーションの問題、これは先ほどの先生方の御意見の中で随分出てきた問題なんですけれども、モチベーションの開発ですね。これはやはりひとつ問題だろうと思えます。サイコ先生のスピーチの中にありましたが、モチベーションを日本の学生達はあまり持っていないと、大学に入

ってから、モチベーションを与えなければいけないんだと。」

サイコ：「持ってないというより少ないんです。」
橋本：「少ないんですね。非常に少ないという

ことで、それを可能にするのは、まあ日本人の教師も、外国人教師の問題でもあると思うんですけども、まあそのモチベーションについてももう少し、この学習するモチベーションということにつきまして何か、御意見がありましたら、簡単にお一言伺いたいと思います。どうすれば学生達が本当に意欲的に外国語を学ぶようになるのか。そういうことにつきまして、先生方の御経験に照らした簡単なコメント、御意見を伺えたらと思います。」

郡：「日本人の学生は、モチベーションはあると思うんですけども、それは学生によって違うと思います。それを先ず知らないといけないということは一つあると思います。」

バクシー：「つまり我々がはるばる日本政府の招きを受けて大阪外国語大学に任命されたという、そもそも目的は正にその学生諸君のモチベーションですね、無いものについては造ると、有るものについてはなお高めるといふことにあるのであって、それをしなければ外国人教師としての責任は放棄したことになるのではないのでしょうか。」

アントニオ：「私はその意見には賛成できません。モチベーションは必ずしも外から与えられるのではなく、自ら持つべきものでもあると思います。」

学生によっては既にモチベーションを自ら備えている者があり、例えばそれは旅行に興味を持っていてフィリピンに行きたいというような場合であったり、フィリピンで仕事をする為に言葉を習いたいという場合だったりします。私は学ぶということは相互的な過程であって、いくらかのモチベーションは学生自身が持っているべきだと思います。」

サイド：「フィリピンの場合は働きに行ける機会を持つ学生も多いでしょうが、スワヒリ語の場合、東アフリカには日本企業は非常に少なく、その点難しい事情があります。一人だけ大変強いモチベーションを持った学生がいて、彼は私達が毎月開いている卒業生の集いに必ずくるのです。彼は非常に稀な例で、スワヒリ語の場合、大体の学生は仕事で東アフリカに行く機会は非常に限られていると知っています。こういった場合どうすればいいのでしょうか。」

バクシー：「非常にモチベーションの高い人は、ほっといても学ぶであろう。我々の本当の責務は、例えばどんなジャングルにも花は咲くわけであります。で、咲く可能性のある花を咲かせるのが庭師の腕前ですから、我々はその庭師の役割を担っているのだらうと、まあ上等な花はほっといてもきれいに咲くということです。」

サイド：「私はモチベーションとは何かという枠組みを設けるのは困難だと思います。その時の状況とか、言語、教師、学生等によって変わってくるからです。私の場合は、スワヒリの言葉と文化に対する興味を学生の中に沸かせるということです。例えば私は学生達を家に招き、ザンジバ料理を披露します。彼らはそれがおいしいのに感心して作り方を聞きます。そしてそこからまた別の事に話題を移し、スワヒリ語で簡単なおとぎ話を読もうといっています。すると、学生はスワヒリ語でおとぎ話があるのかと驚きます。しかし、これはあくまでも私の例で、他の言葉にも一般化できるかどうかわかりません。モチベーションに対する枠組みを設けるのは難しいものです。」

橋本：「どうもありがとうございました。時間もそろそろ定刻の2時半に近付いて参りました。今日は外国人教師によるAV座談会第9回目でしたけれども、イタリア語のサイコ先生の基調講演といたしまして、後の先生方から色々な体験にもとづ

きました御意見、そしてまた我々考えさせられる問題提起をくださったように思われます。このような御意見御体験を今後の本学における外国語教育にいかせていただきまして、よりいっそうこの外国語大学の語学教育が進展することを私たちは願っております。今日は本当に長時間にわたりまして貴重な御意見を賜り、フレンドリーに語って頂きましたことを

非常に嬉しく思っております。そしてサイコ先生はこの3月で御退職になられるということではありますが将来におきましてもご健康に気をつけられまして、御研究を発展させられますよう、そしてまたここを離れられましても、いろいろな御支援、御鞭達をお願いしたいと思います。どうも本日は大変ありがとうございます。

LLA関西支部「マネージメント研究部会」第1回研究会に参加して

視聴覚資料係 青山 功

2月20日、なつかしの外大跡に近い、上本町6丁目の社会福祉センターで、第1回の「マネージメント」研究部会が行われた。LLに関係している先生方だけでなく、多くのスタッフが参加するこの研究会に興味をもって参加した。

LLのスタッフの方々が多く参加されるということで、プログラムはLLの教育、教授法ということではなく、LLの維持、管理ということをメインテーマとして以下の通り進められた。

1. LLの管理、運営について

大阪府立生野高等学校 倉西 修氏

大阪府下の高校のLL授業の現状について、18校のアンケートとともに報告された。高校においては、大学であるようなサポート体制（事務官、助手等の支援）はなく、保守を含めた管理、運営、機器の操作は英語担当の先生方で行わなければならないので非常に大変であるとのことで、将来的には、諸先生方の共同の利用の場であり、開放の精神にある図書館のライブラリアンの協力が望ましいのではないかとのことであった。

つづいて、先生が実際にお使いになっているLL教材、LLの教授法の紹介を聞いた。

2. LLの維持管理について

メーカーの国内外における組織、保守の体制の説明を受けた後、メーカーの要望もあり、フリーに現状のLL機器の保守体制、LL装置等の問題点、疑問点を参加者から述べた。

保守については、対応の遅さ、修理料金の高さが

指摘された。また、LLの装置については、アナログからデジタル方式になったことで、非常に使いにくくなった。テープカウンターがあまり。使わない無駄な機能が多い。シンプルが一番よい。など、多くの問題点が指摘された。メーカーも問題点の多さに多少戸惑い気味であったが、体制の改善、装置の改良を期待したい。

3. 本研究部会の今後の活動方針について

視聴覚資料と著作権の問題、LL教室の望ましい管理、運営体制、機器の保守についてなどをテーマとして今後活動していくことになった。

この研究会に参加して、大学、高校でのAV資料の授業への導入の増加に伴い、LL教室、ビデオ教室の設置は、全国的に広がっている現状を再確認した。また、視聴覚教育だけでなく、情報処理教育のためのパソコン実習室、自習室の設置も広がってきているようである。これらの特殊な教室をより効果的に使われるような、管理、運営体制の確立化が早い時期に必要であるように思われた。

本学においても、LL、ビデオ教室の利用は年々増え、使いたい時に使えないのが現状である。より効果的な視聴覚教育ができるように、ビデオ教室等の増設をお願いしたい。また、授業のサポート、教材作成、教室の管理体制、そして、テープライブラリーにおける資料の収集、保存、貸出業務などのサービス体制も発展的に考え、視聴覚委員会、図書館に提案したい。

〈LL 便り 1〉

1992年度テープ・ライブラリーの利用状況について

視聴覚資料係

今年度(1982. 4. 1~1993. 2. 28)のテープ・ライブラリーの資料の利用状況を紹介します。

1. まず、映像資料(ビデオ・テープ、レーザーディスク)、音声資料(カセット・テープ、CD)の昨年と比較した月別の利用統計(表①、②)です。

映像資料については、昨年の11月に既設のU-matic、U-matic-PAL、VHS-PAL、Be-PALの4台を利用の多いVHSのデッキに変更したこともあり、昨年より1,384回の利用増加になりました。音声資料については、100回の利用減になりました。

表① 映像資料月別利用回数

月	'91年度	'92年度
4	670	713
5	1,461	1,348
6	1,256	1,553
7	1,012	1,187
8		399
9	823	916
10	1,071	1,307
11	948	847
12	781	922
1	648	743
2	717	836
合計	9,387	10,771

表② 音声資料月別利用回数

月	'91年度	'92年度
4	229	159
5	427	326
6	325	258
7	292	361
8		33
9	207	202
10	288	308
11	238	226
12	234	257
1	208	236
2	213	185
合計	2,661	2,551



〈LDのジャケットよりコピー〉

2. 次に、利用回数の多かった映像資料、音声資料を紹介します。(表③、④、⑤、⑥)

表③ 映像資料(映画)利用ベスト10

利用回数	資料名等
1. 287	羊たちの沈黙('91米)/監督:ジョナサン・デミ 出演:ジョディ・フォスター、アンソニー・ホプキンス アカデミー作品賞、監督賞、脚色賞、主演男優賞、主演女優賞、ベルリン映画祭最優秀監督賞 (E-0554)
2. 275	プリティ・ウーマン('90米)/監督:ゲアリー・マーシャル 出演:リチャード・ギア、ジュリア・ロバーツ (E-0547)
3. 182	ゴースト ニューヨークの幻('90米)/監督:ジェリー・ザッカー 出演:パトリック・スウェイジ、デミ・ムーア アカデミー助演女優賞、オリジナル脚本賞 (E-0548)
4. 178	ターミネーター2('91米)/監督:ジェームズ・キャメロン 出演:A. シュワルツェネッガー、リンダ・ハミルトン アカデミー音響賞 (E-0530)
5. 174	ホーム・アローン('90米)/監督:クリス・コロンバス 出演:マコーレー・カルキン (E-0551)
6. 147	推定無罪('90米)/監督:アラン・J・パクラ 出演:ハリソン・フォード、ブライアン・デネヒー (E-0545)
7. 125	いまを生きる('89米)/監督:ピーター・ウィアー 出演:ロビン・ウィリアムズ アカデミーオリジナル脚本賞 (E-0472)
8. 119	ダンス・ウィズ・ウルブズ('90米)/監督:ケビン・コスナー 出演:ケビン・コスナー、メアリー・マクドネル アカデミー作品賞、監督賞、脚色賞、編集賞、撮影賞、オリジナル作曲賞、録音賞、ベルリン映画祭銀熊賞 (E-0526)
9. 110	オールウェイズ('89米)/監督:スティーブン・スピルバーグ 出演:リチャード・ドレイフェス、ホーリー・ハンター (E-0546)
10. 109	カサブランカ('42米)/監督:マイケル・カーチス 出演:ハンフリー・ボガード、イングリッド・バーグマン アカデミー作品賞、監督賞、脚色賞 (E-0125)

表④ 映像資料(語学・一般教養)利用ベスト10

利用回数	資料名等	利用回数	資料名等
1. 46	NHK Japanese (JJ-0137)	6. 6	シルクロード 第1部 (AsJ-0028)
2. 21	日本語教育映画 (JJ-0043)	6. 6	Japan Today (JE-0064)
3. 10	日本語授業の実際 (JJ-0134)	6. 6	アインシュタイン ロマン (JJ-0158)
4. 8	極東料理入門 (AsJ-0051)	7. 5	河殤
5. 7	中国の食文化 (CJ-0035)	7. 5	張学良がいま語る (CJ-0069)

表⑤ 言語別利用ベスト3

言語	1	2	3
中国語	牧馬人(C-0062)	赤いコーリャン(C-0095)	黄色い大地(C-0028)
デンマーク語	ペレ(DE-0011)	バベットの晩餐会(DE-0007)	子供たちの城(DE-0010)
チェコ語	真夏の夜の夢(CZ-0001)	売られた花嫁(CZ-0002)	
ドイツ語	ベルリン・天使の詩(D-0036)	嘆きの天使(D-0034)	ブリキの太鼓(D-0008)
英語	羊たちの沈黙(E-0554)	プリティ・ウーマン(E-0547)	ゴースト(E-0548)
フランス語	ニキータ(F-0194)	さよなら子供たち(F-0124)	カミュー・クロードル(F-0195)
ギリシャ語	旅芸人の記録(G-0002)	アレクサンダー大王(G-0001)	
グルジア語	ざくろの色(GR-0001)	スラム砦の伝説(GR-0003)	
ヒンディ語	Daag(H-0002)	Tezaab(H-0050)	Ram Teri Ganga Maili(H-0047)
ハンガリー語	コンフィデンス(HG-0002)	青ひげ公の城(HG-0004)	日記(HG-0006)
インドネシア語	追いつ追われつ(IN-0002)	Keluarga Markum(IN-0011)	Tiggall Landas(IN-0007)
イタリア語	ニュー・シネマ・パラダイス(IT-0083)	道(IT-0008)	自転車泥棒(IT-0013)
日本語	シコふんじゃった(J-0189)	あげまん(J-0161)	サザン・オール・スターズ イン北京(J-0187)
朝鮮語	桑の葉(K-0064)	ディープ・ブルー・ナイト(K-0008)	族譜(K-0003)
モンゴル語	偉大なタカ(M-0002)		
ベルシャ語	Ghariben va Meh(P-0002)	Samad beh Madreseh Miravad(P-0012)	Ragh-e Sangi(P-0004)
フィリピン語	City after dark(PH-0017)	Private show(PH-0013)	われらフィリピン人(PH-0001)
ポーランド語	灰とダイヤモンド(PO-0001)	大理石の男(PO-0006)	夏の最後の日(PO-0013)
ロシア語	戦艦ポチョムキン(R-0019)	モスクワは涙を信じない(R-0007)	罪と罰(R-0045)
イスパニア語	フリオ・イグレスias・スペシャル(S-0001)	欲望の法則(S-0021)	バチ当り修道院の最後(S-0040)
スウェーデン語	マイ・ライフ・アズ・ア・ドッグ(SW-010)	秋のソナタ(SW-0002)	ファニーとアレクサンドル(SW-00013)
タイ語	悲恋の橋(T-0018)	田舎の教師(T-0001)	落ちた天使(T-0003)
タミール語	Salangai Oli(TM-0002)	Meendum Kokila(TM-0001)	Moondram Pirai(TM-0003)
トルコ語	路(TR-0001)	二つの人生(TR-0002)	水もまた燃える(TR-0004)
ウルドゥー語	パキスタンの内なる闇(UR-0007)	Aaina(UR-0001)	Memorable plays from(UR-0004)
ベトナム語	Tuyet son phi ho(V-0001)	十月になれば(V-0002)	黒いサボテン(V-0003)
ウォロフ語	チェド(WO-0001)		

表⑥ 音声資料利用ベスト10

利用回数	資料名等	利用回数	資料名等
1. 244	Basic spoken French (F-0028)	6. 42	修訂 新中国語
2. 138	Japanese for today (J-0002)	7. 41	TOEICの英語 (E-0653)
3. 62	グラモフォンCDベスト100 (X-0077)	8. 32	英検サクセス カセットブック(E-0643)
4. 58	Portugues contemporaneo (BP-0011)	9. 29	英検1～3級 カセットブック (E-0519)
5. 46	桂米朝上方落語大全集 (J-0006)	10. 28	香港広東語会話 (C-0018)

3. 最後に語科別の映像資料、音声資料の利用状況を紹介します。(表⑦、⑧)

表⑦ 映像資料語科別利用統計

語科名	合計	1年	2年	3年	4年	5年
<I部>						
中国語	1,012	288	312	289	123	
英語	958	302	220	239	197	
ロシア語	666	95	331	122	118	
フランス語	601	196	114	158	133	
イタリア語	570	161	180	170	59	
インド・パキスタン語	484	185	103	136	60	
イスパニア語	461	153	135	106	107	
アラビア・アフリカ語	447	196	69	148	34	
日本語	397	206	97	39	55	
インドネシア・フィリピン語	370	128	104	61	77	
ポルトガル・ブラジル語	338	174	101	28	35	
ドイツ語	274	75	78	85	36	
ペルシャ語	235	137	32	57	9	
タイ・ベトナム語	220	104	50	37	29	
デンマーク・スウェーデン語	211	101	70	22	18	
ビルマ語	160	89	18	16	37	
朝鮮語	156	56	27	30	43	
モンゴル語	136	25	47	19	45	
<II部>						
中国語	182	29	20	54	9	70
英語	177	41	28	10	17	81
ドイツ語	107	61	23	2	9	12
フランス語	102	31	8	20	36	7
イスパニア語	99	39	20	20	16	4
ロシア語	96	6	61	16	3	10
大学院生	219					
教職員	82					
その他	76					
留学生	1,935					
合計	10,771					

表⑧ 音声資料語科別利用統計

語科名	合計	1年	2年	3年	4年	5年
<I部>						
フランス語	353	117	134	43	59	
中国語	276	96	20	128	32	
英語	223	103	21	53	46	
日本語	138	36	37	42	23	
ロシア語	112	19	27	31	35	
インドネシア・フィリピン語	111	29	17	23	42	
アラビア・アフリカ語	110	35	29	32	14	
イタリア語	94	25	23	25	21	
インド・パキスタン語	93	12	27	35	19	
イスパニア語	89	7	34	31	17	
ポルトガル・ブラジル語	74	19	46	1	8	
タイ・ベトナム語	61	9	15	21	16	
デンマーク・スウェーデン語	59	13	4	40	2	
ドイツ語	56	4	33	5	14	
ビルマ語	42	29	3	4	6	
ベルシャ語	42	4	8	17	13	
モンゴル語	35	7	14	1	13	
朝鮮語	27	5	15	1	6	
<II部>						
ロシア語	50	1	17	15	8	9
イスパニア語	42	2	11	1	21	7
英語	41	8	17	8	6	2
フランス語	32	5		2	20	5
中国語	26	5	3	10		8
ドイツ語	19	8	1	5	2	3
大学院生	40					
その他	45					
教職員	27					
留学生	234					
合計	2,551					

以上8つの利用統計を紹介しました。映像資料の利用は年々増加の傾向にあり、視聴ブースは常に満席の状態です。また、音声資料についてはトータルでは利用回数減でしたが、CDについては、専用ブ

ースが少ないにもかかわらず利用は増加の傾向にあります。このようなことを踏まえ、より一層の資料、施設の充実を考えていきたいと思ひます。

<LL便り2>

新規購入映像資料(レーザー・ディスク)一覧

その11

(1993年3月現在)

資 料 別	音 声	資料番号
Star Wars (スター・ウォーズ)	(英 語)	E-0090
Star Wars ; the empire strikeback	(英 語)	E-0090/B
Star Wars ; return of the judy	(英 語)	E-0090/C
Godfather Part III (ゴッド・ファーザーIII)	(英 語)	E-0008/C
Batman returns (バットマン・リターンズ)	(英 語)	E-0600
Dick Tracy (ディック・トレイシー)	(英 語)	E-0603
Scissorhands (シザー・ハンズ)	(英 語)	E-0604
Misery (ミザリー)	(英 語)	E-0605
Cape Fear (ケープ・フィアー)	(英 語)	E-0606
Hook (フック)	(英 語)	E-0607
Awakenings (レナードの朝)	(英 語)	E-0608
My Own Private Idaho (マイ・プライベート・アイダホ)	(英 語)	E-0609
To Have And Have Not (脱出)	(英 語)	E-0610
The Prisoner No. 6 (プリズナー No. 6)	(英 語)	E-0611
V. I. WARSHAWSKI (私がウォシャウスキー)	(英 語)	E-0613
Bright Lights, Big City. (再会の街)	(英 語)	E-0614
Glory (グローリー)	(英 語)	E-0615
Bird On A Wire (バード・オン・ワイヤー)	(英 語)	E-0616
mo'better biues (モ'ベター・ブルース)	(英 語)	E-0617
Jungle Fever (ジャングル・フィーバー)	(英 語)	E-0618
The Hand That Rocks The Cradle (ゆりかごを揺らす手)	(英 語)	E-0619
When Harry Met Sally (恋人達の予感)	(英 語)	E-0620
the fabulous baker boys (恋のゆくえ)	(英 語)	E-0621
KUFFS (カフス!)	(英 語)	E-0622
GREEN CARD (グリーン・カード)	(英 語)	E-0623
Working Girl (ワーキング・ガール)	(英 語)	E-0625
LOOK WHO'S TALKING TOO (ベイビー・トーク2)	(英 語)	E-0534/B
The Naked Gun 2 1/2 (裸の銃を持つ男 PART 2 1/2)	(英 語)	E-0544/B
La belle noiseuse (美しき静い女)	(フランス語)	F-0202
Le Mari De La Coiffeuse (髪結いの亭主)	(フランス語)	F-0204
monsieur HIRE (仕立屋の恋)	(フランス語)	F-0205
賭神 (ゴッド・ギャンブラー)	(広 東 語)	C-0195
つぐみ	(日 本 語)	J-0192

1993年度 LL 時間割表

(第I部・昼間主コース)

(第II部・夜間主コース)

	教室名	1	2	3	4	5	I	II		
		09:10~10:40	10:50~12:20	13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:10~19:40	19:50~21:20		
月	4-I		Ph1 大上	E1b スターク	E2b スターク	D 高田博	F語 小沢	C語 上神		
	4-II		F1b 大木	F1a 大木	C3・4 上神	F2a 小沢				
	5-I	R2Bb ネボリシン	R2Ba ネボリシン	DM2 パルダン	H2 溝上	英語中級 バニヤン			F語 木内	
	5-II	R1b 林田	B2 オントー	PB1 林田		F2a 木内				
	VR(3階)	U3・4 松村	K2 金	Ph1 津田	PB3・4 林田	R3 ジャメ				
	VR(D棟)									
AVホール	心理学 高橋	教育心理学 高橋		F 田村	F 田村					
火	4-I		P2 ラジャブザーデ	S1a 長谷川	C2 張	C3・4 深尾				
	4-II	U1 タッバスム	H1b 高橋	M2 塩谷	E1a スターク					
	5-I	B1 南田	B2 南田	英語中級 マック	Tr トプラマオール					
	5-II	Ph2 大上	Ph2 エミリア	F2a バルトネ	F2b バルトネ	It1 郡				
	VR(3階)	C2 胡	K2 金	It初級文法 郡	It3・4 郡	It3・4 中江				
	VR(D棟)			東南アジア文化論 吉川	Sw 二文字					
AVホール	E ネルソン	地誌II 神前	教育心理学 苧坂	教育心理学 苧坂						
水	4-I	C3・4 深尾	It2 郡	C2 上神	E中級 ドランス	E初級 ドランス	D語 高田博	C語 青野		
	4-II	D1 平岡	V1 富田	S1b 北条		Tr トプラマオール			E語 大橋	
	5-I		SD2 ビヒマン	DM1 パルダン		C3・4 張				
	5-II	R2Ba ネボリシン	1b バルトネ	P1 ラジャブザーデ	B3・4 鈴木	It3・4 郡				S語 伊藤
	VR(3階)		Ph3・4 津田	F4 バルトネ		DM3・4 パルダン				
	VR(D棟)		R2Ab ネボリシン							
AVホール		美術論 上倉								
木	4-I	D3・4 友田	V2 富田		IN2 アイブ	IN1 アイブ				
	4-II		H1a 高橋		E2 ネルソン	It1a ストリー				
	5-I	E1b 舟阪	Ph2 リリア		R1b 生田	R1a 生田				
	5-II		B3・4 オントー		DM3・4 福居					
	VR(3階)	Ph2 津田	C2 古川			DM3・4 パルダン				
	VR(D棟)									
AVホール										
金	4-I	PB1 河野		E上級 ドランス	英語中級 森岡	E3 ドランス	E語 ドランス	E語 ドランス		
	4-II		E前期 船山	E1c 杉本	E2c ドランス	It1a ローディ			D語 友田	
	5-I	Sw1 ビヒマン	Ph1 大上	It1b ローディ						
	5-II		F1a バルトネ	F3b ユオ	F3・4b ユオ	E1a 上野				E語 大津
	VR(3階)	Ph1 ヨランダ	K1 金	K3・4 金	It3・4 ローディ					
	VR(D棟)			DM 間瀬、他	K 初級 長谷川	C 川田				
AVホール										
デジジョン		E後期 船山								

AV Journal ー第24号ー

1993年7月15日発行

編集 大阪外国語大学視聴覚教育委員会
附属図書館視聴覚資料係

発行 大阪外国語大学

印刷 (株) ムラタ印刷